



悩ましい亜種

オオソリハシギ *Limosa lapponica* は、春秋に香川を通過するシギ類です。亜種は最近では3つ有るとするのが有力で、次のように分類されています。

<i>L.l.baueri</i>	亜種オオソリハシギ	日本では最も普通。アラスカ繁殖、東オーストラリア越冬。
<i>L.l.lapponica</i>	(亜種の和名は未確認)	日本未確認。ヨーロッパで越冬。
<i>L.l.menzbieri</i>	亜種コシジロオオソリハシギ	日本に少数渡来。東シベリアで繁殖し、北西オーストラリアで越冬。

L. l. menzbieri は、以前は *L. l. lapponica* と同一とされていたこともあり、オーストラリアの古い図鑑(1993年版の「The Slater Field Guide to AUSTRALIAN BIRDS REVIDED EDITION」)でも、オーストラリアのコシジロウズラシギは *L. l. lapponica* と記載されています。また日本の図鑑でも、ちょっと古くなると「亜種コシジロウズラシギ」=*L. l. lapponica* としているものもあります(例えば2004年版の「シギ・チドリ類ハンドブック」)が、注意が必要です。現時点では日本に渡来しているのは *L. l. lapponica* ではないとされていますので、古い図鑑の亜種名に引きずられてしまうと、ヨーロッパの亜種の特徴を亜種コシジロオオソリハシギの特徴と誤解しかねません。ちなみに、各亜種の識別点は次の通りです。

<i>L.l.baueri</i>	亜種オオソリハシギ	下背と腰には目立つ褐色斑がある。
<i>L.l.lapponica</i>	(亜種の和名は未確認)	下背と腰が真っ白。翼下面も白い。
<i>L.l.menzbieri</i>	亜種コシジロオオソリハシギ	下背と腰の褐色斑は小さく、一見して白く見える。

ここで問題なのは、腰が真っ白なヨーロッパの亜種 *L. l. lapponica* は日本では未確認ですので、日本に渡来する「腰が白いオオソリハシギ」は、実際は全て褐色斑が有る、ということです。

そして困ったことに、亜種オオソリハシギ幼鳥では、腰の褐色斑が細く、白っぽく見える個体もいます。

そのため、腰が白っぽいオオソリハシギを見つけても、と思っても、その褐色斑の太さや密度、濃さの差を判定しないと、「亜種コシジロオオソリハシギである!」という結論は出せません。良識的で慎重なウォッチャーほど、明らかに「薄い」と思っても、「別亜種だ!」と断定することは躊躇していたのでしょう。

私見では、この「程度の差」を打開したのが、デジタルカメラの普及です。多くの方が撮影した写真が残ることで、他のオオソリハシギとの比較が容易になり、近年は「これは亜種コシジロ」と断定できるケースが増加したように感じます。もちろん中には「腰の褐色斑が細い亜種オオソリハシギ幼鳥」を誤認していることもあるでしょうが、少なくともこれまで「疑い」止まりだった識別が、一歩進んでいます。

実際、亜種コシジロオオソリハシギは鳥類目録第6版では4件、しかも1945年 東京、1954年10月 神奈川、1921年12月 宮古島、1921年11月 石垣島と極めて古い記録(たぶん捕獲による確実なもの)しか記録が認められていなかったところ、第7版では日本各地で稀に渡来する(例えば Accidental Visitor として秋田、埼玉、東京、愛媛、宮崎、沖縄島が掲載)とされ、明らかに記録箇所が増加しています。おそらくこれは、亜種コシジロオオソリハシギが増加したのではなく、「識別した例」が増加したのでしょう。

香川県への渡来

さて、香川県ではこれまで、オオソリハシギといえば亜種オオソリハシギでした。

ただ2010年にも観音寺市姫浜で「腰の白いオオソリハシギがいる」と話題になったことがあり、疑い例がなかったわけではありません。(ちなみに2010年個体は、上記の鳥類目録の改訂(2012)前だったこともあり、「約50年間も新しい記録が認められていない亜種が、本当に香川県に出るものだろうか」という躊躇もあって、断定には至りませんでした。

しかし今秋観音寺市姫浜で、改めて亜種コシジロオオソリハシギとされる個体が観察・撮影されました。

スタッフの川崎彰さん・知子さんから提供された写真を確認すると、下背、腰には小さな褐色斑がありますので、まずはヨーロッパ亜種 *L. l. lapponica* ではありません。一方、普通の亜種オオソリハシギ *L. l. baueri* として見ると、やはり下背と腰は明瞭に白く見えます。この差の程度をどう考えるかが難しいところなのですが、

とりあえず僕はインターネットで他の亜種オオソリハシシギや、亜種コシジロオオソリハシシギとされる個体の写真と比較した結果、この個体の程度であれば、現時点では亜種コシジロオオソリハシシギと識別して問題ないと考えています。

ただ、今後も同様の「腰の白っぽいオオソリハシシギ」が観察されると思いますが、「亜種コシジロオオソリハシシギは少数が日本に渡来している」という先入観があると、つい全てを亜種コシジロと識別しがちです。

様々なオオソリハシシギの観察を積み重ねて、「オオソリハシシギの腰の白さ」の幅を把握しておく、ピンボケでも良いので写真を撮影するなど、慎重な識別が、より重要になると思われます。

(参考文献)

- ・1993, Slater,P.ほか. The Slater Field Guide to AUSTRALIAN BIRDS REVIDED EDITION . LANSLOWNE
- ・2012, 日本鳥学会. 日本鳥類目録改訂第7版, 日本鳥学会
- ・2004, 氏原巨雄・氏原道昭. シギ・チドリ類ハンドブック, 文一総合出版社
- ・2014, 永井真人. ♪鳥くんの比べて識別！野鳥図鑑 670, 文一総合出版社



▲亜種コシジロオオソリハシシギ 性不明・幼鳥 観音寺市姫浜
2017.10.27 Photo©川崎知子